

令和7年度 第2回掛川市図書館協議会（先進地視察研修）記録

- 1 実施日 令和8年1月29日（木）
- 2 視察先 袋井市立袋井図書館（袋井市高尾町19-1）
- 3 視察内容 まちじゅう図書館の取り組みについて ほか
- 4 出席者  
図書館協議会委員 4人  
図書館協議会事務局 4人
- 5 視察の概要
  - ・袋井市の概要と袋井市立図書館の概要説明  
〔まちじゅう図書館について〕  
誰一人取り残さず、いつでもどこでも本と出会える、紙と電子のハイブリッドな図書館
  - (1) 導入までの主な課題
    - ① 来館者数や貸出冊数が減少傾向。乳幼児期の読書は中学生期まで続かない。
    - ② 蔵書が限定的であり、児童生徒のニーズに応える環境が整っていない。
    - ③ 児童生徒が一人一台端末を持っているにも関わらず、電子書籍を利用できる環境が整っていない。
    - ④ 子ども読書活動推進センターの取り組みを強化したい。
  - (2) 上記の課題を解決するために
    - ① 令和6年度 デジタル田園都市国家構想交付金を活用して、学校図書館と市立図書館のシステム連携、ICタグによる蔵書管理、電子図書館を導入し、「まち全体で図書館機能を担う仕組み」の基盤づくりを構築
  - (3) 令和6年度の実施内容・導入効果
    - 〔取組内容1〕
      - 「学校図書館と市立図書館のシステム連携」  
市立図書館（2館1分室）と学校図書館（16校）の共通システム導入により、学校でも市立図書館の本の貸出・返却、予約、読書通帳の利用が可能。
    - 〔導入効果1〕
      - ① 一元管理することで、児童生徒が学校図書館で利用可能な資料が50倍に増加（1校あたり約1万冊から約50万冊）
      - ② 学校図書館に読みたい資料がない場合は、市立図書館の資料を予約し、学校に取り寄せすることで、児童生徒が出会える資料が平等化かつ飛躍的に増加し、読書量の増加・学習意欲の向上が期待される。
      - ③ 市立図書館のみ利用可能であった読書通帳（ふくぶくつうちょう）が小中学校でも利用可能となり、読書意欲の向上が期待される
      - ④ 図書登録等の効率化により、児童生徒への働きかけの時間が増加。
    - 〔取組内容2〕
      - 「電子図書館の導入（電子書籍の貸出）」  
インターネット環境があれば、24時間365日利用でき、いつでもどこでも、タブレット端末やスマートフォン等で読書ができる環境を整備

〔導入効果2〕

- ① 市民が市立図書館に足を運ばずとも、図書館の利用が可能
- ② 児童用読み放題パックを活用し、児童生徒の一人一台端末で同時利用が可能
- ③ 読書バリアフリー機能として、音声読み上げ、文字サイズの拡大、文字と地の色の反転などが可能になり、紙の読書が困難な方が気軽に利用可能
- ④ 公立図書館で利用許諾された商用コンテンツに加え、これまで電子化に取り組んできた地域資料も貸出可能

〔取組内容3〕

- 「ICタグによる蔵書管理」  
ICタグによる蔵書管理システムを導入し、貸出、返却、予約資料の受け取りのセルフ手続きが可能。※導入にはコストと労力をかなり費やした。

〔導入効果3〕

- ① 待ち時間が減少、プライバシー保護が実現
- ② 予約図書を受け渡しも職員を介さず可能
- ③ 蔵書点検の時間短縮
- ④ レファレンスサービスの充実を実現

(4) 現在の実施状況

- ① 市立図書館  
貸出点数（電子書籍含む）は、前年度比（4～12月）で増加
- ② 学校図書館  
貸出点数は、小中学校ともに、前年度比（4～12月）で増加

(5) 質疑応答

- 読書量や貸出冊数の向上は見られたか  
⇒ 読書量は数値としてわからないが、貸出冊数については、(4)で説明のとおり本を読むことが好きかどうか毎年2月に子ども読書調査を実施しているので、昨年より伸びていると良いと思う。
- システム共通化によるメリット、デメリットは。  
⇒ メリット（導入効果1に記載のとおり）  
デメリット（市民が借りることができるので、子どもたちが借りたい時に、貸出中になってしまうことが懸念される。）
- 物流について  
⇒ 火～金で4校ずつ巡回（計16校）。3時間程度/日。回送専門の職員1人。北部、中部2グループと浅羽地区。館内の受付内の棚で仕分し、回送している。
- 導入効果は。  
⇒ 来館できなかつた方が、電子書籍を借りられるようになった。子どもたちの利用が増えた。
- その他課題は。  
⇒ 学校図書館の管理が4校1人から、2校1人に改善された。学校図書館へ職員を派遣（1日/週）することで、学校図書の管理が改善された。除籍もスムーズにできている。本来は1校1人が理想だが、現状は難しい。
- 今後の計画や目標  
⇒ 学校司書の配置、学校図書館でも市民が利用できるようにすること。
- 民間へのおはなし会の投げかけと出張先の選定について  
⇒ 待っていても話は来ないので、市から最初に投げかけをした。出張先は、気軽に出向ける（興味はあるが、ちょっと覗いてみたいと思う施設等）場所を基本に選定している。ほとんどの場所で好評である。最近は施設からお誘いを受けることもあり、事業が少しずつ浸透してきていると感じている。
- 市立図書館職員の司書の割合

- ⇒ 約半数程度
- 子どもが予約した本は、学校側もわかるのか。
  - ⇒ プライバシー保護の観点から、学校側もわからないようになっている。
- 国の交付金は、どのような手続きが必要か。
  - ⇒ 計画から実績、成果報告など提出書類は多岐に渡り、非常に苦労した。
- システム共通化は、非常に良いことだと思う。また、よみきかせについても、官民一緒になって、袋井市全体でまちじゅう図書館に関わっており、非常に良い取り組みだと思う。
- 自動貸出機の利用率は。
  - ⇒ 基本すべて自動貸出機で対応している。1年でかなり定着してきている。
- ぶっくつうちょうは、元々導入していたものか。
  - ⇒ 図書館では、既に導入しており、新たに学校にも導入した。  
学校とのシステム連携は、目に見えて市民へのメリットがわかりづらいので、あわせてICタグ、電子図書館を導入することで、市民へのメリットも見える化した。ICタグは、蔵書点検の効率化にも繋がっている。

(6) 施設見学

自動貸出機・返却機、予約資料受取棚、貸出通帳機 ほか